

バレー部 小樽後志で優勝

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2023年12月13日
第51号



新体制、少ない練習で4戦全勝

12月9日、10日、余市総合体育館で小樽・後志地区バレーボール新人戦大会が開催され、小樽潮陵、小樽桜陽、倶知安、小樽未来創造と岩内の合同チーム、本校の5校でのリーグ戦となり、4戦全勝で優勝した。3年生が引退し、新体制で臨み、考查や見学旅行で練習時間が短い中での勝利だった。

【メンバー】

- 森あずさ (2-2)
- 本間陽香 (2-2)
- 本郷里奈 (2-2)
- 福原花菜 (2-4)
- 大坪晴夏 (2-3)
- 星井佑月 (1-3)
- 波木ひな (1-3)
- 嶋田海音 (1-4)
- 下野莉鈴 (2-2)
- 菊地優花 (2-3)
- 前田心優 (2-4)
- 和高ちり (1-4)
- 丸山璃恋 (1-3)

小樽切り絵カルタ④ (せ〜つ)

ミスが減らし、声を出す

主将の森あずささん(2-2)は「限られた練習時間だったが、今後につながる良い試合ができた」と振り返る。反省点としては、ミスで相手に点を与えた部分があったことだ。「ミスの少ないチームを目指したい」と語る。一方、チームの雰囲気は良く、互いに声を掛け合い、接戦になってもコート内外で声を出し合い、粘り強く戦うことができた。

自分たちのバレーを追求

次の週末は私立高校の全道大会が控えている。「札幌大谷、帯広大谷と対戦する。格上のチームだが、自分たちのバレーができるように全力で臨みたい」と語る。

さらに1月13日には高体連の新人戦支部予選が控えている。2月2日からの全道大会出場を目指し、新チームの躍進が期待される。



石炭を 運んで栄えた 手宮線
明治時代、幌内の石炭を運び出すため、鉄道が敷設され、手宮の港から輸送が始まった。絵札には入船陸橋を渡る弁慶号が描かれている。

雪原に 思い思いの 弧を残し
小樽のスキーは一九一二年苦米地英俊さんがスキーを3台購入したことから始まった。やがて小樽はスキーのメッカと呼ばれるほどスキーが盛んになった。

ソーランと にしん綱引く 唄
ひびく。かつて栄えた鯨漁では共同で作業するために作業ごとの唄があった。沖揚げ音頭はソーラン節と呼ばれ、今日に伝承されている。

啄木が 小樽で過ごした 数か月
石川啄木は一九〇七年、四ヶ月の間、小樽で『小樽日報』の記者として過ごした。釧路に旅立つとき、見送る妻を詠んだ歌が駅前の歌碑に刻まれている。

地名にも 名前を残す 榎本翁
幕末から明治の偉人・榎本武揚は小樽の発展に尽力し、稲穂町を開拓、「梁川通り」は榎本の雅号に因んで命名された。

ツアー来て 異国のことば 聞きにけり
近年、アジアの観光客が増えている。暖かい国の人に雪は珍しく、冬のイベント「雪あかりの路」には海外のボランティアも参加するほどだ。